

日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

No.33

目次

・新理事長からのご挨拶	1
・新理事の紹介	2
・平成24年度事業計画及び予算案	3
・第10回日本生殖看護学会学術集会報告	4
・第10回日本生殖看護学会学術集会に参加して	4
・第8回生殖看護実践セミナー報告	5
・理事会報告	5
・平成24年日本生殖看護学会総会報告	6
・これから行われる学術集会・研修会等のお知らせ(2012年11月~2013年3月)	7
・各地区で開催される勉強会のご案内(関東地区、関西地区)	7
・各地区で開催する勉強会の支援	8
・もし不妊看護の現場で行き詰ったら	8
・事務局からのお知らせ	8
・編集後記	8

新理事長からのご挨拶

理事長 野澤美江子



1999年不妊看護ネットワークから始まり、2003年に設立された日本不妊看護学会も、今年10周年を迎えました。不妊看護の種まき期から学会活動の充実期までの10年という長い年月を務められました森明子前理事長からバトンを受け、今期の第4期理事長の任を務めることとなりました野澤美江子でございます。

学会設立から本学会を支えてくださいました森前理事をはじめ、本学会役員及び会員の皆様のお力のおかげで本学会がここまで成長し続けてきたことを重く受け止め、さらなる

拡大発展へ向けて努力いたす所存でございます。

生殖補助医療の進歩に伴い、それを取り巻く社会情勢も大きく変化してきます。倫理的課題が解決しないまま実践が先行している配偶子提供・代理出産、着床前診断や出生前診断など、生殖看護が取り組むべき課題が広がっています。これまで、不妊の問題を抱えたカップルへの看護を主に考えていました。しかし、“妊孕性”に着目し将来妊娠を望んでいる女性や男性、これから妊娠を考えているカップル、治療によって妊孕性が脅かされているがん患者、これまで不妊治療を受けて更年期を迎えた女性等、看護の対象も広がり、生殖看護の概念についてもさらなる検討が必要になっているのではないのでしょうか。

本学会の目的は、生殖看護の実践家・教育者・研究者の交流を促進し、学術的發展に寄与することにより、個人及び家族の生涯にわたる健康と福祉に貢献することにあります。これからもこの目的を大切に、生殖医療チームに関わる他職種や患者・当事者の方々、或いは他分野の看護職とも連携をはかりながら、積極的に慢心してまいりたいと存じます。会員の皆様のご支援・ご協力を役員一同、心より期待申し上げます。

これからも日本生殖看護学会をよろしく願いいたします。

新理事の紹介



副理事長、広報委員
上澤悦子氏 (福井大学)

副理事長を拝命いたしました。生殖看護の発展のために理事長を支援し、会員の皆様のために全力を尽くしたいと存じます。よろしくお願いいたします。



総務
森 明子氏 (聖路加看護大学)

総務を担当します。会員の皆様にとって、身近でアプローチしやすい学会を目指します。10年間理事長を務めさせていただき、ありがとうございました。今後は一理事として理事長をサポートしていきたいと思っています。



会計・看保連担当
清水清美氏 (国際医療福祉大学)

今期より会計担当となりました。みなさまの貴重な会費が本学会とみなさまにとって有意義に活用されるよう、明瞭かつ公平な活用および報告をめざしたいと思います。



編集委員
村本淳子氏 (三重県立看護大学)

本学会も今年で10周年を迎え、生殖に関する課題はますます多様化し、また複雑化しています。一歩一歩着実に看護実践・看護研究を進め、生殖看護を発展させていきたいと考えています。これからますます内容のある、期待される学会誌発行をしていきたいと思っています。ご協力よろしくお願いいたします。



将来検討委員
有森直子氏 (聖路加看護大学)

日本不妊看護ネットワークから日本生殖看護学会へと、時代の潮流を見据え、名前を替え活動を展開してきた学会も10年を迎えました。温故知新、これからの10年を若い仲間と共に創造していきたいと思っています。



実践開発委員
橋村富子氏 (近大姫路大学)

実践開発理事として就任いたしました橋村です。今後、各地域の幹事の皆様と共に、看護職へのサポートのあり方の検討など現場での活動が充実するように努めてまいりたいと思います。皆様方のご協力をお願い申し上げます。



実践開発委員
菅野伸俊氏 (木場公園クリニック)

今年度より理事に加わりました菅野です。学会初の男性理事として「男性からの視点」、また「実践家としての視点」をフルに活用して学会運営を支えていきたいと考えています。皆様どうぞ宜しくお願い致します。



教育推進委員
森 恵美氏 (千葉大学)

教育推進委員会担当の森恵美です。生殖看護実践セミナーの企画・開催と勉強会の支援をしています。セミナーは毎年会員の意向に合わせて開催しております。何か要望がございましたら、遠慮なくご意見をお願いします。



広報委員
實崎美奈氏 (聖路加看護大学)

今回、広報担当として初めて理事を務めさせていただきます。これまでに培ってきたものをフル活用し、本学会および生殖看護の広報活動を進めて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



監査
遠藤俊子氏 (京都橘大学)

日本生殖看護学会は、10年で300名を超す学会になりました。母性看護の実践を担っている看護職は、不妊の問題は常に関与しています。もっと、仲間を増やしませんか。



監査
岸田佐智氏 (徳島大学)

3期目の監事を務めさせていただくことになりました。学会も10年の節目も過ぎ、事業も充実してまいりました。今年は年会費も値上げされます。学会員の皆さまにとって、より価値の大きい学会となるよう役割を果たしていきたいと思っています。

平成24年度事業計画

1. 常任委員会

- ◆総務（事務局）：個人情報保護法に基づいた会員管理とHPの運営・管理、関連団体・機関への会議出席や学会としての意見提出の実施と拡大
- ◆実践開発委員会：ホームページ上での学会員における看護上の相談対応、相談活動のPR、不妊症看護認定看護師の認定後の継続教育を支援していくための活動、メーリングリスト運用準備・開始による学会員不妊症看護認定看護師ネットワーク作りの充実化
- ◆教育推進委員会：第8回生殖看護実践セミナーの開催、第9回生殖看護実践セミナーの企画・準備、勉強会では不妊症看護認定看護師等を中心にした計画申請の呼びかけ、開催支援
- ◆広報委員会：ニュースレターの企画・編集及び発行、関連学会などでPR活動
- ◆編集委員会：日本生殖看護学会誌の発行
- ◆将来検討委員会：国内外の情報収集と発信、研究助成関連の運営・管理、実践的な研究支援

2. 特別委員会

- ◇看保連対応ワーキンググループ：看保連の総会・臨時総会への出席、平成26年度診療報酬改定に向けた医療技術評価提案書の作成検討
- ◇在宅自己注射マニュアル作成ワーキンググループ：不妊症看護認定看護師やART実施施設の看護職対象の質問紙調査を実施し、プロトコル案を完成予定

平成24年度予算案

(平成24年9月1日から平成25年8月31日まで)

一般会計

収入の部

(単位：円)

大科目	小科目	予算額	備考
会費収入	年会費	2,400,000	300名×8,000円
繰越金	前年度繰越金	1,274,983	
収入合計	収入合計 (A)	3,674,983	

支出の部

科目	小科目	予算額	備考
会議費		[640,000]	
	理事会会議費	600,000	
	総会費	40,000	往復はがき代
事業費		[1,280,000]	
	広報委員会	350,000	ニュースレター400部、学会リーフレット作成
	教育推進委員会	130,000	
	実践開発委員会	50,000	
	編集委員会	300,000	学会誌発行
	将来検討委員会	250,000	研究支援と研究助成金
事務費		[560,000]	
	人件費	300,000	アルバイト (PC入力・HP管理)
	通信費	40,000	
	備品費	150,000	PC購入費
団体登録料		[110,000]	
	日本看護系学会協議会	80,000	
	看保連	30,000	
活動費		[100,000]	
	ワーキンググループ活動	100,000	
予備費等		984,983	
支出合計 (B)		3,674,983	

特別会計：研究助成金積立金

(単位：円)

小科目	予算額	備考
平成24年度積立金	200,000	一般会計より
平成24年度助成金	200,000	助成2名分予定
前年度までの積立金	349,891	
合計 (A)	349,891	

第10回 日本生殖看護学会学術集会報告

—第三者の関わる生殖医療における看護の役割—

第10回 日本生殖看護学会学術集会長 清水 清美

9月9日(日)、国際医療福祉大学小田原キャンパスにて、第10回日本生殖看護学会学術集会を開催しました。関東でありながら、交通の便がいささか不便な小田原の地に総勢220名の方にお集まりいただき、感謝申し上げます。

本年度は、不妊症看護のなかでもマイノリティなテーマである、「第三者の関わる生殖医療」について企画させていただきました。本テーマは当事者の身体的・精神的な問題にとどまらず、倫理・社会的な問題を含む技術であり、日本の中でも法整備がされていないのが現状です。しかし、このような技術を求める不妊カップルはおり、技術を求めて海外渡航される方もおります。一方では、妊娠はしたもののハイリスクな妊娠・出産に至ったり、出産を受け入れてくれる施設がないなどの問題に直面するケースもおります。また、このような技術で生まれた人から本技術に対する問題提起も散見されています。このようなテーマに対し、看護師としてどうあるべきか?皆さんと一緒に考えたいと思いました。

教育講演では、ドイツで不妊カウンセラーをされているペトラ・ソーン博士を招聘し、「世界における第三者の関わる生殖医療の現状と課題」について、また、シンポジウムでは「精子提供・卵子提供による家族形成と看護の役割」について、この技術に関わるさまざまな立場の方から意見をいただきました。

講演やシンポジウムを通して、夫婦間の子どもが得られない不妊カップルの心情に寄り添うケアの充実と共に、本技術に関連する人(生まれた人、ドナー、ドナーの家族)が搾取されないための検討、特に本技術の選択時に意見が言えずに生まれてくる、人の福祉や出自を知る権利を重視した情報提供やケアのあり方の重要性が認識されました。

視聴覚教材の故障等、参加者のみなさまにご不便・ご迷惑をおかけしましたことをお詫びします。来年は京都の地でお会いできればと思います。



第10回日本生殖看護学会学術集会に参加して

聖隷浜松病院 松尾 七恵

第10回日本生殖看護学会学術集会に参加させていただきました。学会テーマは「第三者の関わる生殖医療における看護の役割」でした。ドイツで不妊カウンセラーをされているペトラ・ソーン博士の教育講演「世界における第三者の関わる生殖医療の現状と課題」はとても興味深く、日本だけでなく世界規模で第三者の関わる生殖医療がどのように国境を越えて行われているのかを知ることができました。世界規模でこのような生殖医療ツーリズムがおこっていることを知り、この生殖医療を受けようとしているカップルやこの医療に関与するドナーに、看護職としてケアを提供する必要性をさらに感じました。

また、シンポジウムでの当事者のお話は、とても心に響きました。技術を使う段階では意見をすることができないにもかかわらず、一番の当事者である生まれてくる子供たちのことも含めたケアの重要性を感じ、看護として今何ができるか、何をすべきかを考えるきっかけになりました。今回の学会では多くの学びを得ることができ、とても貴重な時間を過ごすことができました。今後もこの学びを活かした看護を行っていきたいと思います。

第8回生殖看護実践セミナー報告

9月8日、『セックスレス・カップルへの対応について考えよう』のテーマで、第8回生殖看護実践セミナーが開催された。残暑厳しい中、57名（その内、非会員13名）の参加があった。

基調講演として、大川玲子氏（独立行政法人国立病院機構千葉医療センター外来管理部長・産科医長）より、「セックスレス・カップルと性医療」についてご講演いただいた。最初に、セックスレス・カップルの定義やセックスレスの社会的背景・原因、男女の性反応の違い、性機能障害などの基本的知識についてお話しいただいた。さらに性治療のプログラムとして、In take（性歴をとる）、カウンセリング、行動療法（感覚集中訓練、系統的脱感作療法、セマンズ法）、精神療法、リラクセス法（自律訓練法）、自己身体観察、masturbation等についてもご紹介いただいた。特に、女性の代表的な性機能障害であり挙児希望者にも多いワギニスムスの治療法として、系統的脱感作療法の実際を具体的にご紹介いただいた。また、性の問題のひろいあげ方（勇気を奮って聞いた患者の話の思いを受け止める、中立な立場をとり批判をしない、いい加減な答えをしない、何が問題なのかを判断する、医療者側から声をかけてみる等）や、性治療における医療者の関わり方（誰にも性があるというスタンス、偏見をなくす経験を積む、他に困っていることないか、例えばセックスのことは？と問いかけてみる等）、性相談モデルである PLISSIT MODEL（Permission；性についての相談を受ける意思表示、Limited Information；基本的な情報提供、Specific Suggestion；より深い内容について相談を受け、解決法を提案する、Intensive Therapy；専門的な性治療あるいはその情報提供）についても具体的に解説していただいた。最後に、セックスレス・カップルの相談窓口として講師の大川氏より以下のご紹介があった。

日本性科学学会 カウンセリング室 <http://www14.plala.or.jp/jsss/counseling/>
 予約専用電話：03-3868-3853（受付時間月・水・金10：00～13：00、祝日休み）

*セックスレス、性障害、性生活、性機能障害、性欲低下、性嫌悪症、勃起障害など「性の悩み」について医師・臨床心理士が相談者の心理的・身体的側面双方より問題をとらえ、相談・治療を行う。

出席者へのアンケートより

- 先生の熱い想いと実践がつまっており、とても心に響いた。
- セックスレス・カップルに対する治療、ケアの実際、性反応、性機能障害に対する知識をわかりやすく学ぶことができてよかった。実践についても聞けたので役に立った。
- 系統的脱感作療法など、具体的な治療や関わり方のコツ、対応などが参考になった。
- 生殖医療と性の問題は切り離せないものだと思うので、勉強になった。性のことで悩んでいる患者様は多いので、臨床で少しでも役に立ちたいと思う。

報告：教育推進委員会

理事会報告

第5回理事会（書面）

日時：平成24年7月11日(水)

【報告事項】

1. 看保連対応ワーキンググループ：「診療報酬の適正評価のための看護ケア技術体系化に向けた研究」への回答のため、理事の意見を集約予定
2. 設立10周年記念事業：式典当日の役割を一部変更

【審議事項】

1. 入会審査：5名の新規入会を承認
2. 学会ロゴ：記念事業実行委員から提出の7作品から最優秀賞1人、優秀賞2人を選出し賞金の分配を承認

第6回理事会

日時：平成24年8月10日(金) 18時00分～20時50分

場所：聖路加看護大学 2号館5階ミーティングルーム

出席：森明、村本、阿部、遠藤、上澤、岸田、清水、野澤、橋村、森恵、矢野、（選挙管理委員長）山崎

【報告事項】

1. 選挙管理委員：6月再選挙実施、次期役員12名決定
2. 実践開発委員会：3月より学会員の不妊症看護認定看護師のメーリングリスト（参加者64名）運用開始
3. 教育推進委員会：第8回生殖看護実践セミナーを9月8日(土)聖路加看護大学で開催予定

4. 広報委員会：任期を超えてニュースレター No.33までを担当。原稿締切は10月8日
5. 編集委員会：6月1日に学会誌第9巻1号を発行。現在第10巻1号の発行準備
6. 第10回学術集会：現在の参加申込み者70名弱
7. 日本看護系学会協議会：高度実践看護師制度検討委員会への要望書を提出するため、総会で協議

【審議事項】

1. 入会審査：5名の新規入会を承認
2. 実践開発委員会：11月のFine 祭りで不妊相談ブースに協力した学会員に、交通費・日当の支払い決定
3. 総務：役員選挙における覚書き（案）の検討・修正
4. 設立10周年記念事業：選考担当者推薦の記念論文賞1名・学会ロゴ受賞者3名決定。新ホームページ案の修正・追加事項検討し、式典にて公開予定
5. 看保連対応ワーキンググループ：看保連総会が開催、「診療報酬の適正評価のための看護ケア技術体系化に向けた研究」の回答として、「不妊治療初期の相談活動」、「在宅自己注射の実地指導」を承認。「看護技術検討委員会」から「あり方検討会」へ移行を検討
6. 財政基盤の安定化：会計担当理事より財政逼迫の現状説明、学会費6,000円と8,000円の2案で事業予算案を検討し、総会で会費値上げの提案を決定
7. 平成24年総会要綱（案）の検討

8. 新役員顔合わせ：9月8日国際医療福祉大学で開催
9. 第11回学術集会会長：学術集会長に矢野理事を承認
10. 学会員が著者である本学会誌の論文を、当該施設のリポジトリへ掲載許諾。今後も同種の依頼は許諾。医学書院の看護系論文データベースへの申し込みは様子観察

第7回理事会（書面）

日時：平成24年9月4日(火)

【審議事項】

平成24年度研究助成審査結果が報告され承認

第8回理事会

日時：平成24年9月8日(土) 18時00分～19時20分

場所：国際医療福祉大学 小田原キャンパス

出席：森明、村本、阿部、遠藤、上澤、岸田、清水、長岡、橋村、野澤、森恵、矢野

【報告事項】

1. 平成23年度会計監査：平成23年度一般会計、特別会計の収支決算及び遠藤・岸田監事による監査報告
2. 設立10周年記念事業：9月8日(土)聖路加看護大学で記

念式典を開催。参加者数64名、9月6日現在の寄付金額796,000円（52件）。事業概要は後日報告予定

3. 第8回生殖看護実践セミナー：「セックスレス・カップルへの対応について考えよう」をテーマに、9月8日（土）聖路加看護大学で開催。50数名が参加。
4. 第11回日本生殖看護学会学術集会：2013年9月1日(土)に京都府西京区、明治アパルマンホールにて開催予定

【審議事項】

1. 入会審査：1名の新規入会承認。2年間会費未納で強制退会となる17名に理事から納入依頼を声かけ
2. 医行為分類案及び教育内容等基準案に関する意見募集にかかる説明会の報告。意見提出は、「高度実践看護師制度あり方検討会」緊急集会（日本看護系学会協議会）に参加後検討
3. 平成24年総会要綱（案）（事業計画ならびに予算）の内容確認・修正、総会の進行確認
4. その他
 - 1) 設立10周年記念事業で黒字会計となった場合の取り扱いを収支決算後に検討
 - 2) 学術集会当日に年会費の納入窓口を設置することについて、今後検討

平成24年度 日本生殖看護学会 総会報告

日時：平成24年9月9日(日) 9:05～9:38

会場：国際医療福祉大学 502・503教室

出席：会場出席者96名、委任状188通（本学会会則第18条により総会成立）

総会司会：實崎幹事

議長：清水理事（第10回学術集会会長）

<報告事項>

1. 理事会報告（森理事長）
平成23年度に開催された8回の理事会（うち4回は書面理事会）について報告
2. 総務（事務局）報告（實崎幹事）
平成24年8月22日現在、会員数は326名。会員管理、関連団体・機関（健やか親子21推進会議、看護系学会等社会保険連合・看護系学会協議会）への対応、学会ホームページの運営と管理、役員選挙を実施
3. 各委員会事業報告
 - 1) 常任委員会
 - 実践開発委員会（橋村理事）：HPにて学会員の相談対応、不妊症看護認定看護師の継続教育支援、NPO法人Fine主催「Fine祭り」の後援を実施
 - 教育推進委員会（森恵理事）：関西・関東・九州地区の勉強会のサポート、第8回生殖看護実践セミナーの企画・準備。勉強会等助成要項の作成・HP掲載
 - 広報委員会（野澤理事）：ニュースレター30～32号の企画・編集及び発行。1年経過したものを学会HPに掲載。学会リーフレット配布によるPR活動
 - 編集委員会（村本副理事長）：学会誌第9巻1号発行の編集活動、学会誌発行に関する見直し、専任査読委員の依頼を実施
 - 将来検討委員会（長岡理事）：国内外の情報収集と発信、研究助成の運営・管理を実施
 - 2) 特別委員会
 - 看保連対応ワーキンググループ（清水理事）：総会、看護技術評価委員会に出席、「診療報酬の適正評価のための看護ケア技術体系化に向けた研究」の協力、平成26年度診療報酬改定の意向調査を返答
 - 在宅自己注射マニュアル作成ワーキンググループ（長岡理事）：在宅自己注射指導を実施している看護

師の意見を集約する調査用紙に関して不妊医療施設の看護師からのコメントを得て修正中

4. 平成24年研究助成審査結果（長岡理事）
研究助成審査会（平成24年8月30日：書面）の選考結果：申請件数：1件、採択件数：0件。審査委員：岸田佐智氏、橋村富子氏、矢野恵子氏。第7回理事会（書面）で選考結果を承認
 5. 設立10周年記念事業（森理事長）
学会ロゴマーク作成、新ホームページ作成、記念式典（9月8日聖路加看護大学参加者数は64名）を実施。9月6日現在寄付金額は796,000円（52件）
 6. 役員選挙結果（永野選挙管理委員）
第4期理事・監事の選挙結果について報告。選挙人数232名、投票数125名、辞退者3名と繰り上げ当選3名を調整し、12名の当選者を確定
- その他：会場からの質疑応答（森理事長）
質問：10周年記念事業寄付金の余剰金扱いは？
回答：学会のために活用することを理事会で検討予定。会計処理についても今後検討予定

<審議事項>

1. 平成23年度収支決算ならびに会計監査（上澤理事・遠藤監事・岸田監事）
上澤理事より、平成23年度の一般会計および特別会計の収支決算（案）を報告
遠藤監事より、平成23年度収支決算に関して監査を執行した結果、適当であったと報告
※報告事項に関し、会場の拍手により承認
2. 平成24年度事業計画案（森理事長）
平成24年度の常任委員会および特別委員会の事業計画案を報告（本号 p. 3 に掲載）。
3. 財務基盤の安定化のための打開策について（森理事長）
財務基盤安定化の打開策として次年度会費8000円への値上げおよびその根拠を提案
※会場の挙手により承認
4. 平成24年度収支予算案（上澤理事）
審議事項3の財務の基盤の安定化の決議決定に基づき、平成24年度収支予算（案）について報告
※会場の挙手により承認

5. 会則改正 (森理事長)

年会費値上げに伴う附則第2条3の追加を報告

※会場の挙手により承認

6. 次期理事長および副理事長の承認について

(森理事長)

第8回理事会で次期理事長に野澤美江子氏、副理事

長に上澤悦子氏が選出された旨を報告

※会場の拍手により承認

7. 第11回学術集会の開催と学術集会長 (森理事長)

学術集会長は矢野恵子氏が選出、25年9月1日(日)、

明治国際医療福祉大学(京都)での開催を報告

※会場の拍手をもって承認

◎これから行われる学会・研修会等のお知らせ(2012年11月~2013年3月)◎

月	日	学会・研修会名	会場	学会 HP/ 運営事務局
11月	8日・9日	日本生殖医学会(第57回) 「家族のきずなを求めて」	長崎ブリックホール (長崎市)	http://www.jsrm.or.jp/ MA コンベンションコンサルティング TEL: 03-5275-1191 FAX: 03-5275-1192 E-mail: info@macc.jp
	10日 11日	日本周産期メンタルヘルス研究会 (第9回)「ハイリスク妊娠とメンタルヘルス」 日本周産期メンタルヘルス研究会 研修会	J A 共済 ビル カンファレンスホール (東京都千代田区)	http://pmh.jp/index.html 第9回開催事務局(順天堂大学産婦人科学教室) TEL: 03-5802-1099 FAX: 03-5802-2480 E-mail: mieya@juntendo.ac.jp
	16日・17日	日本母性衛生学会(第53回) 「母性、母と子のすこやかな未来のために」	アクロス福岡 (福岡市)	http://www.bosei-eisei.org/ 福岡大学医学部産婦人科学教室 TEL: 092-801-1011 (内3505) FAX: 092-865-4114 E-mail: bosei53@fukuoka-u.ac.jp
	30日・1日	日本看護科学学会(第32回) 「日本再生のとき、看護学の真価を問う」	東京国際フォーラム (東京都千代田区)	http://plaza.umin.ac.jp/~jans/ 株式会社コンベンションリンクージ内 TEL: 03-3263-8688 FAX: 03-3263-8693 E-mail: jans2012@c-linkage.co.jp
1月	12日・13日	日本臨床エンブリオロジスト学会 (第18回) 「磨く、技術は未来のために」	アクトシティ浜松 (浜松市)	http://embryologist.jp 第18回日本臨床エンブリオロジスト学会 事務局 スズキ記念病院 医療技術部内
3月	3日	日本生殖医療心理カウンセリング 学会(第10回) 「チーム医療の役割「絆」—命の原点をみつめなおす—」	ホテルメトロポリ タン仙台(仙台市)	http://www.repro-psycho.org/ 株式会社ヒューマンリプロ・K 日本生殖医療心理カウンセリング学会 事務局 TEL: 045-937-1039

*2012年10月5日現在の情報です。詳細は各学会 HP 等でご確認ください。



各地区で開催される勉強会のご案内

詳細は、ホームページ
をご覧ください。

関東地区

【テーマ】性教育の現状と不妊看護の今後の課題～不妊予防の視点から～

【内容】1. 性教育の現状と傾向、今後の課題について(60分)

講師: 順天堂大学 助教 西岡笑子先生 ※思春期性教育の研究をされている先生の貴重な講演です

2. 意見交換、ディスカッション(60分)

【日時】平成25年1月27日(日) 14:00~16:30(13:30から受付開始)

【場所】聖路加看護大学2号館(東京築地) ※暖房設備が使用できないため、厚着でのご参加をおすすめします。

最寄駅: 東京メトロ日比谷線「築地」駅、東京メトロ有楽町線「新富町」駅

【連絡先】小林祐子 神奈川レディースクリニック E-mail: yukomacbook@gmail.com

返信メールが1週間たっても届かない時にはお電話下さい。(090-5443-1857 小林)

【参加費】1,000円(非学会員1,500円)当日徴収しますのでおつりのないようにご準備ください。

【申込み方法】参加希望の方は氏名、所属と職種、ご連絡先を明記の上、E-mailにて小林宛にご連絡下さい。

関西地区

【テーマ】流産・死産を経験した方への看護

【内容】1. 講演: 岡永真由美先生(広島大学大学院博士後期課程・尼崎医療生協病院)

2. グループディスカッション

【日時】平成25年1月20日(日) 13:00~16:30

【場所】アクセス梅田フォーラム(大阪富国生命ビル12階)

【参加費】1,000円(資料代含む)

【事前申込み必要: 申込み先】越田クリニック 藤島由美子

FAX: 06-6316-6088

E-mail: yumiko_key_f@yahoo.co.jp

各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。初めて企画を担当される方、或いは自分たちの地区でもぜひ勉強会を開催したいけれどどうしたらよいかかわからない…等、お気軽にご相談ください。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマ或いは内容、連絡先（住所、電話番号、FAX 番号、メールアドレス）等を下記の連絡先までご連絡下さい。よろしくお願い申し上げます。

【連絡先】千葉大学大学院看護学研究科 母性看護学教育研究分野 森 恵美

mori@faculty.chiba-u.ac.jp 〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1 電話：043-226-2410 FAX：043-226-2414

もし不妊看護の現場で行き詰まったら…

日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいるこの患者さんにどのように対応したらいいのだろうか?」「患者さんとゆっくり話が出来る環境を作るためにはどうしたらいいのか?」など、臨床の現場ではシステムや看護観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じるがあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。会員の皆様からのご相談をお待ちしています!

なお、詳細は学会ホームページをご覧ください。

事務局からのお知らせ

1. 事務局の Fax/Tel 番号が変わりました。新番号は03-5550-2293です。メールアドレスは従来通り jsin@slcn.ac.jp です。日本生殖看護学会への問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご意見・ご希望等ありましたら、E-mail もしくは Fax で、気軽にご連絡ください。
2. 2012年度より、学会の年会費が8,000円になりました。会費納入は、できるだけお早めに、金額をお間違えなく、お願い申し上げます。
3. 転職・転居された方は必ず事務局までお知らせください。ニュースレター、学会誌はメール便を使用しているため、郵便と異なり、転送されません。
4. 会員数326名（平成24年8月22日現在）です。学会の活性化を一層はかるため、生殖看護に関心のある、知り合いの方にぜひ入会をお誘いください。入会案内および入会申込書は学会ホームページからダウンロードできます。
5. 日本生殖看護学会ホームページ <http://jsin.umin.jp> が間もなくリニューアルされます。今後も適宜更新していきますので、ぜひご活用ください。

編集後記

10月になっても夏日が観測されるほど、今年の夏は暑かったですね。ここにきて急に寒くなり、衣替えが済んでいなかったため慌てて冬ものを引っ張り出し…。夜の静けさの中で金木犀の香りに気づき、秋から冬に季節が変わってきていることを実感しました。

今号は、新理事の紹介、事業計画や予算案、学術集会報告、総会報告等、掲載内容が盛りだくさんで紙面を納めるのに苦慮し、皆様への配送が遅れてしまいましたこと、申し訳ありませんでした。いよいよ、本学会も新体制で動き出します。ホームページも一新しますので、ぜひアクセスしてみてください。

広報委員は、この号をもちまして委員の交代となります。毎号、会員の皆様への有益な情報提供に努めてまいりましたが、いかがでしたでしょうか? 次号(34号)からは、新メンバーでお届けします。3年間ありがとうございました。(広報委員：野澤美江子、矢野恵子)

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1

聖路加看護大学内

TEL & FAX 03-5550-2293

E-mail jsin@slcn.ac.jp

ホームページ <http://jsin.umin.jp>